

I	名古屋	白山中学校	イモト ユカ
			名前 井本由加
分科会番号 7		分科会名 美術教育	

研究題目 夢中で探求し、自分の思いを表現できる生徒の育成

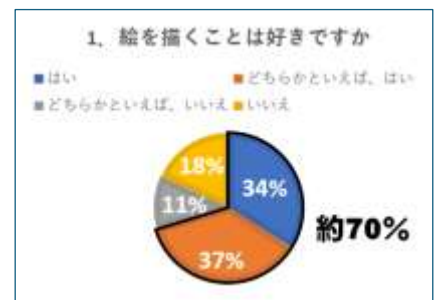
研究要項

1 研究のねらい

私は、美術の制作活動を通して、自分の思いを表現することができる生徒を育てたいと考える。そのためには、自分が作りたと思うイメージをもち、実際にそのイメージに近づくように表現を試行錯誤していくことが大切である。

対象の第3学年の生徒は、絵を描くという行為は好きな生徒が約70%（資料1）だが、自己肯定感が低く、自信をもって何かを表現することが苦手な生徒が約60%いる（資料2）。また、外国にルーツがある生徒も多いため日本語が通じにくい、または伝わっていても自分の気持ちを日本語で言語化することが苦手な生徒も多くいる。例えば、見たものをそのままに描くデッサンなどの単発の課題であれば、一生懸命に取り組むことができるが、課題を把握し、自ら主題について考え、主題に向けてどのように表現をすればよいのか、取捨選択をしたり粘り強く試行錯誤したりするといった制作プロセスを踏むことが難しい。

そこで、生徒が楽しみながらアイデアを生み出すことができるような取組を行い、題材に興味をもって制作に向かえるようにする。また、タブレットPCを活用して、画像検索からイメージに近いものは「YES」、近くないものは「NO」で自分のイメージに近いものを炙り出していく。さらに、ナゴヤ学びのコンパスにおける「自分に合ったペースや方法」「ゆるやかな協働の中で」の観点から、夢中で探求できるようにさせたい。加えて、主題に合う表現探求を行い、色の選択やテクスチャーの選択などの体験を通して、自分の想像した物ができていく喜びを生徒に感じさせたい。以上から完成した作品を振り返り、「思いを表現できた」という満足感を得ることができると考える。そこで以下の3つの手立てを講じた。



【資料1 アンケートより】



【資料2 アンケートより】

2 研究の手立て

重点1. お気に入りのCDジャケットの共有

生徒が楽しみながら、自分のペースで取り組めるように、お気に入りのCDジャケットをインターネットで画像検索を行い、どんなところが気に入ったのかを記入する。その後ロイロノートの共有機能を活用し、学級全員のお気に入りのCDジャケットと感想を見て共有し合い、題材に取り組みやすくする。

重点2. イメージを鮮明にする場面の設定

「どんな風景が浮かんできますか?」「時間帯は?朝?昼?夜?」「とんなにおいを感じそう?」など五感を働かせる問い掛けから、イメージを具体的にし、より追求していく。

重点3. 表現探求の場面の設定

様々な描画材料を用いることで主題に合う表現を探求させる。平面的な要素だけではなく、主題を表現するためにふさわしいテクスチャーを、生徒自身が自分の主題に合った描画材料を選択する。絵の具、色鉛筆、ペン、マスキングテープ、スポンジなどさまざまな描画材料から生まれる表現を体験し、そこから取捨選択をする。

3 題材について

題材名：「心に残る音楽をデザインで表現しよう～CDジャケットのデザイン～（特設）」

対象：中学3年生

本題材では、CDジャケットのデザインを主題に合うように表現する。既習した知識技能を活用し、さらに、探求しながら、表現を追求していく。本制作でできた作品をタブレットで写真を撮り、色みなどの変更をするなど画像加工を行い、その後曲名など文字入れを行っていく。また、音楽を流し、CDジャケットのデザインを発表し、鑑賞する。様々な活動を経て、思いを表現できるようにしていく。

4 活動の様子

(1) ロイロノートを活用し、みんなの好きなCDジャケットを共有・鑑賞する。（重点1）

① 活動の様子

この活動によりCDジャケットにはたくさんのデザインがあり、構図や色彩がもたらす感情について、それぞれの作品から感じ取る生徒が多く見られた。また、互いのお気に入りのCDジャケットを知ることによって、自分が選んだデザインとの共通点や相違点について話す姿も多く見られた（資料3）。CDジャケットのデザインは、「ジャケ買い」という言葉があるように、生徒が「かっこいい！」と思わず声に出してしまうような魅力的なデザインが多く、きらきらした表情で鑑賞を行っていた。



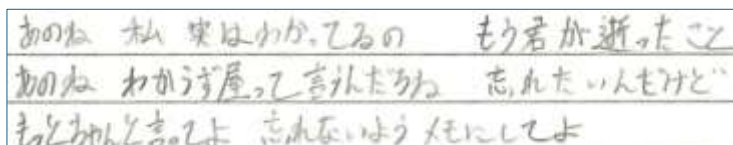
【資料3 ロイロノートの共有画面】

② 成果と課題（○：成果、●：課題）

- 共有し合うことで自然と対話が生まれた。
- 好きな音楽に触れることで文化の違いを肯定し合い、見方や考え方を働かせることができた。
- CDジャケットに興味をもつことができなかつた生徒もいたので、生活と美術について考えさせる場面を設定する必要があった。

(2) 自分の心を代弁してくれる曲を選び、歌詞をワークシートに書き抜く。

ワークシートに自分の好きな曲を1つ選び、その中から今の自分の気持ちにリンクする歌詞を書き抜いた。自分の好きな曲を選ぶ時には楽しそうに「あれも好き」「これも好き」と言っていたが、「自分の気持ちを代弁してくれる歌詞」をワークシートに書き抜く時にはどの生徒も真剣な表情になり、一つ一つ確かめるように歌詞を吟味して選んでいた（資料4）。

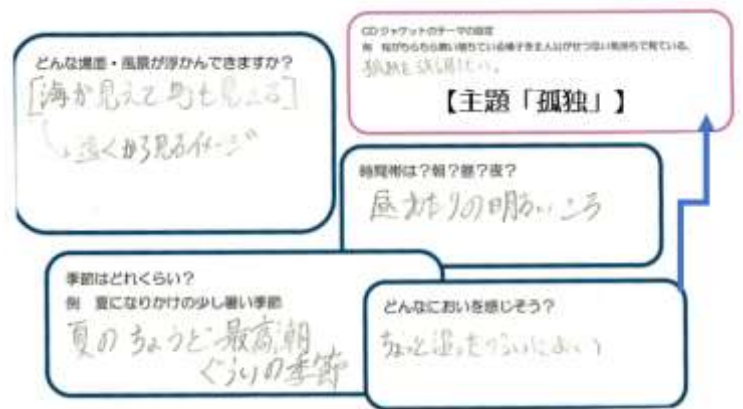


【資料4 生徒Aのワークシートの記述】

(3) 五感を働かせる問いに答えてイメージを具体的にし、想像を膨らませ主題を生み出す。（重点2）

書き抜いた歌詞を基に、「どんな風景が浮かんできますか?」「時間帯は?朝?昼?夜?」「どんな

においを感じそう？」など五感を働かせる問い掛けから、イメージを具体的にした。生徒の中には、「どんなにおいを感じそう」という問いに対して「夕方の少し悲しいにおい」という記述をして、においという五感に感情のイメージを足して記述をしている生徒がいた。また、「どのような風景が浮かんでくるか」という問いに対して「海が見えて、町も見える→遠くから見るイメージ」など視点や構図をイメージしている



【資料5 生徒Aのワークシートの記述。イメージから主題が生まれている】

ことがわかる記述をしていた。その後「孤独を強調したい。」という記述があり、遠くから見るイメージから発想して主題を人や町と距離がある「孤独」という言葉に発展していることがわかる（資料5）。

(4) インターネットで画像検索を行い、イメージに近い要素がある画像を保存していき、イメージをより鮮明にしていく。

① 活動の様子

インターネットで画像検索を行うことで、検索結果として大量の画像が出てくる。それらをイメージに近い or 近くないなどの YES、NO という消去法で判断をし、近い要素があるものはどんどん自分のタブレットPC上に保存をしていき、イメージをより鮮明にしていった。生徒Bは主題「夕方の風景」から、「夕方」というキーワードで画像検索をし、最初は漠然としたイメージであったが、「こういうイメージじゃない」や「もっと青春っぽい画像がほしい」、「町の中の道路に夕焼けが当たっている感じがほしい」などの発言が見られ、イメージが鮮明になっている様子が見られた（資料6）。

生徒Bの検索した夕日				
	△	○	○	◎

【資料6 生徒Bのワークシートの記述】

② 成果と課題（○：成果、●：課題）

- 大量の画像の中から、消去法で判断することで、イメージを鮮明にすることができた。
- 画像があることで、生徒から「アイデアスケッチを描きやすい」という声があがるなど、主題に合う構図のイメージを働かせていた。
- 主題のイメージがしっかりと固まっていない生徒は、「この画像いいな」と新しいイメージに魅力を感じ、主題から離れてしまうことがあった。

(5) 色鉛筆で想像した風景をアイデアスケッチする。

ここまでの活動で、自分の気持ちを代弁してくれる歌詞は、どんな風景？どんなにおい？などの五感のイメージや主題、画像検索で得たイメージに近い写真などの材料を基にアイデアスケッチを描いた。今までに色々な想像が膨らんでいるので、描き始めるとどの生徒も手が止まることなく、どんどん形にしていった。また、抽象的な表現やよりデザイン的なイメージで描きたいという生徒も「この感情を表すならこんな形、こんな色」ということが鮮明になっており、早く描き進める様子が見られた（次項資料7～9）。



【生徒Aのアイデアスケッチ】

主題：孤独（資料5より）



【生徒Cのアイデアスケッチ】

主題 秋の寂しさ



【生徒Dのアイデアスケッチ】

主題 新しいゲームの中、新しい世界

【資料7 生徒Aのアイデアスケッチと主題】

【資料8 生徒Cのアイデアスケッチと主題】

【資料9 生徒Dのアイデアスケッチと主題】

(6) 完成したアイデアスケッチをグループ・クラス全体で相互鑑賞をする。

相互鑑賞では、前半と後半で分けて鑑賞を行った。前半は、アイデアスケッチは見せるが、主題を隠した状態でイメージしたことをワークシートに記入をする。その後どんなイメージが伝わったかを互いに伝え合った。

後半は、主題を見せた状態で鑑賞をする。グループではなく、クラス全体で気になった作品を二つ選び、どんなことをイメージしたのかをワークシートに記入をした。前半、後半共に生徒が興味をもって他の人の作品を見ている様子が多く見られた。

前半のグループ鑑賞の様子では、主題を隠した状態でアイデアスケッチを見たのに、グループのメンバーの鑑賞文が自分のイメージしたものぴったりと重なり、伝わる喜びを感じている様子も見られた。(資料10～11) 外国にルーツがある生徒も多い中、課題に対して、対話を繰り返し、それぞれが友達のアイデアスケッチを鑑賞しては、主題を理解し合う中で、見方や感じ方を深めていた。じっくり鑑賞したり、対話をしたりと取り組む姿は、多様な文化の中で美術の良さ、面白さを体感できているようであった(次頁資料12～13)。



【資料10 生徒Eのアイデアスケッチと主題】

「主題：ライブ会場で歌手の女の子が失恋ソングを泣きながら歌っている様子」

歌手の女の子の人が泣きながら歌っている様子。歌詞の内容は失恋の内容。

【資料11 同じグループの生徒の鑑賞内容】



【資料 12 前半グループ鑑賞の様子】



【資料 13 後半クラス全体鑑賞の様子】

(7) 自分の主題に合う表現探求をする。(重点3)

① 活動の様子

様々な描画材料を用いる事で主題に合う表現を探求した。絵の具、色鉛筆、ペン、マスキングテープ、スポンジなどさまざまな描画材料から生まれる表現を体験し、そこから取捨選択できるようにした(資料14)。平面的な要素だけではなく、主題に合うテクスチャーが表現できるように、モデリングペーストを用意しておき、アクリルガッシュに足した時のテクスチャーの変化にも注目させた。普段使わない材料などに生徒は興味津々であったが、最初は思い切り試すことができずに恐る恐る触る感じだった。コツをつかむと「この材料も試したい。」と色々な材料を持っていき、楽しそうに試す様子が見られた。授業の後半では、アイデアスケッチで描いたモチーフを画用紙に描き、作品にどのように生かすかを真剣に模索する様子が見られた。



「主題 稲妻」【スポンジとフィンガーペイント】



「主題 助ける光」 【たんぽで点描】



「主題 一発KO勝ち」
【たらしこみ技法】



「主題 暗闇の中の怪獣」【マスキングテープとにじみ】 「主題 稲妻」【ドローイング作品】



【資料 14 モダンテクニックなどを含め、様々な描画材料を主題に合わせて組み合わせて探求する】

② 成果と課題 (○：成果、●：課題)

- 様々な描画材料を用いて、表現探求をすることで、一人ひとりが思い描く、主題のイメージに近い表現を模索することができた。
- 生徒の多くは、モダンテクニックやモデリングペーストでしかできない出せない風合いから、発想をより膨らませていた。
- 偶発的にできた形や色の効果を生かした表現に夢中になるあまり、主題から離れてしまう生徒もいた。表現を試すことはよいが、主題に立ち戻るための声掛けが必要であった。

(8) 本制作

相互鑑賞や表現探求を経て、アイデアスケッチの時よりも求めているイメージに近付けていった。

相互鑑賞の時に感じた他の人に自分のイメージが通じているところ、通じていないところについて個々が向き合い、「どうしたらより伝わる形になるのかなあ？」という一人ずつの問いをもって本番の制作をした。

次に、本制作の途中で「対話シート」を配り、制作の途中で困っていることやこうしたいと思っていることなどを教師が把握できるようにした。その後、「対話シート」に書かれていることをきっかけに一人ひとりと教師による対話を行った。技法などで思ったように表現できず、困っている場合もあれば、「主題から離れてしまう。」など生徒一人ひとりが抱えている思いはさまざまであった。生徒のイメージが実現できるように声掛けを行い、生徒は、主題に合う表現を夢中で探求し、さらに表現を追求していった（資料 15、16）。



【資料 15 にじみの効果を生かして制作をする様子】



【資料 16 熱中して制作をしている様子】

本制作でできた作品をタブレットで写真を撮り、色みなどの変更をするなど画像加工を行い、その後曲名など文字入れを行った。生徒は「このデザインだと横文字が合う」とか「文字自体は白字にすると、背景が映えていいよね」など、試行錯誤しながら、思いを表現していった。タブレットを使用することで、取り込んだ写真の周りに文字を入れたり、写真の上に文字を重ねたりするなど、主題に合った表現を追求していた。

(9) 発表、鑑賞

音楽を流しながら、CDジャケットのデザインをプレゼンテーションで発表した。生徒は、主題に合うように、自分の形や色彩の工夫したところを自分なりに伝えていた。「鑑賞者はどのようなイメージを受け取ったか？」という問い掛けには、それぞれが感じ取ったことをワークシートに記入していた。音楽のイメージと CD ジャケットのデザインのイメージが一人ひとり異なることにも注目することで見方や感じ方を深めていた。また、全体の前で発表する様子は、自信をもって取り組んでいた。

5 まとめ

今回の制作を通して、生徒たちは長い時間をかけて、自分の生み出した主題やイメージしたことを形や色彩に表していた。最初は、「イメージしたことを形にするのは、難しい」と言っていた生徒もグループで話し合ったり、表現探求をしたりするなどしていくうちに「自分もったイメージを形にしていくのは楽しい」と感じるようになった。また、対話シートをもとに教師が一人ずつと話をすることによって、どの生徒も自分の表現をより良いものにしようと追求していった。生徒は、自分のイメージに近付けるための方法であれば、新しい画材などにも積極的に挑戦したいと考えていることがわかった。目に見えない自分のイメージを形にしていくことは簡単なことではない。しかし自分自身との対話、仲間との対話、教師との対話など、多様な人たちとの関わり合いの中で、自分の思いを形にしていくことが楽しいと感じる経験があれば、生徒は自信をもって自分の思いを表現できるようになると信じている。

今後も、笑顔で学び、夢中で探求し、自分の思いを表現できる生徒を育成していきたい。そして、「思いを表現できた」という経験から、自信をもって生活を送ってほしいと願っている。